令和6年度大学等の質保証人材育成セミナー vol. 2

「評価疲れ」のメカニズムと解消に向けたTips

「評価疲れ」のメカニズムと測定尺度の開発

渋井　進

令和6年12月13日

まずは測定してみましょう！

- 市村先生が中心となって作成した測定尺度
- https://jp.surveymonkey.com/r/F5DKSN2

- 皆さん疲れてますか？
- ええ、僕は疲れてます！
- 「評価疲れ」の研究に疲れているんですよ！

「評価疲れ」とは？

- 大学評価を始めとする多くの評価においては、そのネガティブな側面として「評価疲れ」について言及されることが多い。
- しかし、「評価疲れ」は、漠然とした語として使用されており、その原因や生じるメカニズム、克服の可能性等について明らかになっていない。

中央教育審議会(2008)
学士課程教育の構築に向けて（答申）

(イ) 第三者評価制度の見直しに当たっては，分野別の評価をどのように進めていくかが重要な課題となる。

分野別の質保証の枠組みづくりを進めつつ，分野別評価へどのように進化させ，普及を図っていくか，その場合，第三者評価制度との関連をどのように考えていくか，「評価疲れ」という批判もある中，機関別・分野別両者の効率的で実効ある評価の仕組みはどう[illegible]た着実な準[illegible]

大学評価導入時には、作業負担に関する「評価疲れ」が中心

大学評価コンソーシアム設立趣意書(2009)

1．「大学評価コンソーシアム」設立の背景

現在、我が国の大学においては、大学評価の手法の改善や、評価結果を大学運営に反映させるＰＤＣＡサイクルの確立が求められている。しかし、これらのための方策は未だ十分ではない。例えば、大学評価に係る過大なコストや「評価疲れ」が指摘されるとともに、多くの大学では、評価結果が大学経営に活用されておらず、評価が評価で終わっている状況にある。また、大学に評価文化が十分に

ここ数年、再び「評価疲れ」が

時代の風

数値目標による評価　「測りすぎ」ていないか？＝長谷川眞理子・総合研究大学院大学長

注目の連載　朝刊2面

毎日新聞　2022/5/29　東京朝刊　有料記事　1734文字

＝宮武祐希撮影

昨今はどんなところでも「数値」が幅を利かせている。仕事に関して数値目標を示す、いろいろな機関をランク付けする、論文の被引用率によって論文の質を評価する、などなどだ。それらの数値を材料として、その機関や個人の評価がなされる。そして、それが客観的で透明性のあるやり方だとされている。

本当にそうだろうか？　国立大学は、6年ごとに中期目標・中期計画を立て、その達成度を測るための指標を設定せねばならない。各大学が独自に設定する指標と、文部科学省によって一律に設定される指標とがあり、それらの達成度によって、運営費交付金の額が増えたり減ったりする。

私はこんなことに10年ほど付き合ってきたが、数値目標の設定と達成のための努力とデータ収集は大変な苦労であり、徒労感を覚えることが少なくない。「評価疲れ」という言葉をよく聞くが、現場は本当にその通りなのである。これは私たちが真剣に取り組むべきことなのか。このような評価をすることによって、何が具体的に良くなる

科学新聞
The Science News
科学技術の進歩に寄与し
豊かな社会発展に貢献する唯一の専門紙です。

2023.04.07 政策

研究者の評価疲れ解消へ一石　CSTIが現場の声拾うアンケート実施へ

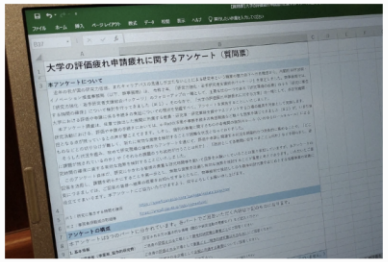
総合科学技術・イノベーション会議（ＣＳＴＩ）の有識者議員会合

競争的資金の申請書や評価報告書の作成などに時間を取られているものの、その結果が次に反映されない、何に使っているのかわからないため、多くの研究者が徒労感にさいなまれている。また各種の審査や人事評価などにも多くの時間を取られている。総合科学技術・イノベーション会議（ＣＳＴＩ）の有識者議員会合は、研究に専念する時間の確保（最終まとめ）に、大学の評価疲れ・申請疲れについて、研究者・ＵＲＡ・技術職員・事務職員にアンケートを行い、制度改正につなげていくことを盛り込んだ。内閣府は、早ければ４月中にもアンケート調査を実施したいという。

国の研究環境改善アンケートに「本末転倒」悲鳴殺到

鳥井真平　松本光樹　環境・科学 | 速報 | 科学・テクノロジー

毎日新聞 | 2023/8/17 7:00（最終更新 8/17 07:00） 有料記事　2263文字



内閣府が作成したアンケートの質問票

日本の研究力強化に向け、政府はこの夏、全国の大学教員らを対象にアンケートを進めている。研究環境改善のため、研究以外の雑務が日々どの程度負担になっているかを問う内容だ。ところが、アンケートのあまりの分量の多さに「逆に負担が増えた」と研究者側から悲鳴が上がる事態に。「本末転倒」の元凶は？

「途中でギブアップ」

内閣府は5月末、全国約30の国公私立大に協力を依頼し、教員らに質問票を配った。タイトルは「大学の評価疲れ申請疲れに対する方策に関するアンケート」。調査は任意で、表計算ソフト「エクセル」に記入する。大学ごとに回答を取りまとめ、内閣府は秋ごろまでに結果を集約するという。

調査の目的を、内閣府は「我が国の研究力低迷、研究者という職業の魅力低下への危機感から策定した支援策のフォローアップの一環」と説明している。

ところが、質問票が配られた直後から、SNS（ネット交流サービス）上で批判的な声が上がり始めた。

「途中でギブアップ」

「手続きの負担についてのアンケートが14枚って皮肉がききすぎていてつらい」

「負担の把握のために浴びせかけられる負担」

調査の分量が多く、回答すること自体が負担という意見が大半だった。

評価疲れ・申請疲れ

話題のツイート　最新　アカウント　メディア　リスト

[redacted] · 6月29日

「大学の**評価疲れ申請疲れ**に対する方策に関するアンケート」ってのがきて，そういうとこやろ，と思いました．

9　527

[redacted] · 6月2日

「「「大学の**評価疲れ申請**」**疲れ**」に対する方針」に関するアンケートって事でいいのかな？

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局に
「そういうとこやぞ」
ってただレス返せばいいと思う。

改善アンケート疲れ！？

「評価疲れ」を引き起こす要因として

第一に、受審する側と評価する側の負担感

第二に、評価結果の活用度や社会からの認知度の低さ

そのためにも、「評価」の成果が広く、多くの大学のステークホールダーに十全に活用され、大学ジャーナリズム界も含め、影響力を持って語られ、流布するようになることを目指していくべきだと考える。実現すれば、「評価疲れ」という言葉も聞かれなくなるだろう。

なぜ評価疲れが起こるのだろうか？

- 大学へのヒアリング調査に基づき、代表的なものとして
  - 執行部からの、良い評価を取らなければいけないという暗黙のプレッシャー
  - 内部質保証体制の構築として、強制される「自主的な」改善
  - 「動機づけ」の問題

特集＊大学は誰のものか

大学失格

「評価疲れ」と大学

渋井 進

はじめに

二〇〇四年の認証評価の施行および国立大学法人から二〇年近くが経とうとしている。その布石である一九九八年の大学審議会答申「21世紀の大学方策について――競争的環境の中で個性が輝く大学」にされるように、競争と評価によって改善を自主的にとは、今や大学にとって日常的な業務として定着「PDCAサイクル等を適切に機能させることに上を図り、教育、学習等が適切な水準にあることを大学自ら任で説明し証明していく学内の恒常的・継続的プロセス」(2)とされる「内部質保証」の体制構築が大学に求められている。また、二〇一八年に「細目省令」(3)が改正されたことにより、現在進

現代思想

2022 vol.50-12

10

大学は誰のものか

国際卓越研究大学・教職員労働問題・就活のリアル…

石原俊＋隠岐さや香

研究と教育のゆくえを問う

阿部公彦
植木朝子
駒込武
重田園江
田中東子

成田龍一
山下祐介

青土社

に
ついて
評価制度
から今日
(以下、
鹿児島
てきた。
とめる立
を表明し
て一方的に退席してしまう教員を目にすることや、教務系の事務や一部の学部研究科等では、評価担当部署からの依頼を放置、サボタージュされることを経験した。その際に、「評価疲れ」を主

53

機構内プロジェクトでの研究内容(令和3~5年度)

1.「評価疲れ」概念の明確化

- 文献調査、機構が実施した評価における大学・評価者向け検証アンケートの分析、大学へのヒアリング調査

2.「評価疲れ」の測定手法の開発

- ヒアリング調査を踏まえ、大学における「評価疲れ」の測定尺度の項目案を作成し、評定実験を通じた測定尺度の信頼性・妥当性の検討による精緻化
- 非言語情報に基づく「評価疲れ」の客観的測定指標の開発

3.「評価疲れ」軽減へ向けた実践

- 研究会を組織して大学、評価機関の教職員からなる研究会を組織し、「評価疲れ」の軽減へ向けて取組を議論
- 「評価疲れ」軽減へ向けた、ワークショップ等の実施

「評価疲れ」をもたらす要因と軽減へ向けた整理

- 「評価疲れ」を引き起こす要因について、2022年4~5月に国立大学5校を対象としたヒアリング調査を踏まえて概念整理および、軽減策を考察。

1. 評価の自己目的化の問題

   KPIの向上のみが目的となってしまい、他の基礎的な取組みが犠牲になるような設計は避ける。

2. 目標・計画の設定の問題

   Evaluability Assessment（評価可能性のアセスメント）の手法を大学評価に適用

3. 「動機づけ」の問題

   外発的動機づけとして求められている評価の中で、「内部質保証」に代表されるように、自主的な改善（内発的）を求められている。

   外発的動機を与えることにより、内発的動機づけが低下するアンダーマイニング効果。

   ⇨すでに機能している改善に向けた取組に対しては、無理に介入しないことも必要か